

たまいたま

川柳



京都 高桐院

令和4年 (2022年)
5月号 (No.750)

日川協加盟

巻頭言

交換誌とごあいさつ

毎月多くの交換誌が届く。全ての誌を隅々まで拝読することは出来ないが、目を通す部分は誌によっても異なる。月例会が円滑に開催されていた頃は、三ヶ月分の到着誌をリュックに詰めて運んでいた。句会参加者が、それぞれお目当ての誌を嬉しそうに持ち帰っている。有効活用である。

しかし、巣籠もりを強いられたこの三年ほど、ほとんどの句会がお流れになった。ために代表宅には交換誌が山積みになった。わが吟社の会員からは、転送して欲しいとのご依頼はない。誠に淑やかなのである。そこで地元の勉強会での配布に供したりするのだが、これが結構有益である。特に交換誌の中での初歩添削や新人教室等に付箋を付けて配ることで、リユースの効果がある。吟社では、新入会員の減少に伴って初歩添削の勉強誌面が絶えて久しい。往年の講座執筆を担当された先輩方の心労は大変なものであったらしい。その頃の誌面で勉強した残存するお仲間も、今では一昔やふた昔を懐かしむ高齢者なのである。

断捨離が声高だった先頃に比べて、いまでは何事もリユースの時代になった。拝領の交換誌を、ささやかながら、真面目に再利用させて頂いていることをお知らせして、ご寛容願いたいところである。

願法 みつる

終刊に向けて「思い出の記」

さいたま誌発刊も残り半年余と迫りました。現会員やかたてのお仲間、永くご厚誼を賜っている方々から、お言葉を頂ければ幸いです。個人のお名前でも、それぞれの思いを述べて頂きたいと念じます。「吟社への思い出、終刊への思い、誰某さんの思い出、川柳への思い、あの日あの時の思い出」など、タイトルも内容もご随意です。

記事は、二十五字×四十行(一千字基準)。記載用紙は自由。誌一頁分に構成します。玉稿は編集部に着以降、最終の十二月号にかけて、逐次紹介させて頂きます。皆様の多彩な「思い出の記」にお目に掛かりたいものです。

送付先は投句類と一緒の場合は事務局宛に、代表宛の場合は表紙4の発行人宛で願います。メールによる原稿送付でも結構です。

ganpoh-nt@nifty.com

編集部